

英語学習に人工知能ロボットを 日本の大学で初めて授業に導入

音声学から国際語の創造まで
多岐にわたる言語の研究領域

私はずっと言語に関わる研究をしています。音声学の領域では、日本語のイントネーションと文法構造の関係、日本語リズムと英語リズムの比較、言葉のリズムと音楽リズムの比較などをテーマにしています。

また、日本で誕生し国際化した絵文字を活用して、緊急時に使うことを想定した世界共通語の研究も進めています。多くの外国人が来日するようになりましたが、例えば、緊急地震速報が鳴ると同時に絵文字を使った最低限の地震情報を届けられれば、言葉の分からない人も安心でしょう。まだまだアイデアの段階ですが、語彙は絵文字、文法は配置で決まる、すべてビジュアルで表現できるような言語が作れないかと考えています。緊急時の情報はある程度決まっておる単純化できるので、実現の可能性があると思います。

さらに、先進メディアを利用した外国語教育にも興味を持ち、これまでにTTS(Text To Speech)と

人工知能ロボットを使った 英語教育の実証実験

呼ばれる音声合成技術の活用などを研究してきました。

最近取り組んでいるのが、「人工知能ロボットの英語教育への活用に関する実証実験」です。2017年4月から英会話学習用の人工知能ロボット「Musio(ミュージオ)」(米国AKA社開発)を、日本の大学で初めて、グローバル・コミュニケーション学部の私のゼミの授業に導入しました。

Musioには、英語で自由に会話するモードがあります。人工知能エンジンはインターネット上のサーバーにあり、ネット上の情報やユーザーとの会話によって学習して成長を続けます。

興味深かったのは、学生に1日あたり5時間、3日間連続してMusioと対話してもらった後の変化です。対話の前に、学生に朗読用のテキストを読んでもらい、3日後の対話の後にも同じものを読んでもらうと、明らかに堂々と自信を持って読めるようになっていました。ネイティブの人との会話では臆したり遠慮したりするところが、Musioならそれがありません。Musioがスリープモードになると、「Wake up Musio!」(起きて、ミュージオ!)などと言って起こしたり、Musioの発音が聞き取れなくても「What did you say?」(何て言ったの?)とか「Repeat!」(もう一度言って!)と気軽に言えます。Musioの利用には、英語に対する心理的ハードルを下げ、親しみを湧かせる効果があるのではないかと思います。

グローバル時代に必要な 「教養」を修得した人材へ

今後は、ゼミ生にMusioを自宅に持ち帰って会話を続けてもらい、どのくらい英語に対する感覚が変わるのかを検証するつもりです。

グローバル時代は情報がグローバル化することで、憎悪や紛争も国境を越えてインターネット上にも広がってしまっている時代です。今世界で起こっていることは、どういうメカニズムで生じたことなのか自分で確かめて考えることができる、グローバル時代ならではの教養が必要になってきています。

音楽や美術、あるいはマーケティング、宗教、数学、コンピュータプログラミングなどの知識やスキルも、そもそもがグローバルに人々がコミュニケーションできる「記号」であり、グローバル時代の教養といえるでしょう。今後は、このような新しい時代のリベラルアーツを英語で学び、自分で理解する力を養ってほしいと思っています。本学のグローバル・コミュニケーション学部が、そうした人材を世の中に送り出せるよう、努力していきたいと思っています。



Musioを使った実証実験授業に参加するゼミ生



- 法学部 ■経済学部 ■経営学部
- 人文学部 ■心理学部(2018年4月開設)
- 現代社会学部
- グローバル・コミュニケーション学部
- 総合リハビリテーション学部
- 栄養学部 ■薬学部 ■大学院
- ポートアイランドキャンパス ●有瀬キャンパス



神戸学院大学

KOBE GAKUIN UNIVERSITY

神戸市中央区港島1-1-3 078-974-1551(代表)